

日本からシンガポール経由でひとっ飛び、
インドネシア・スラウェシ州北部のメナド周辺の海は、
ドロップオフを飾る美しいサンゴ礁が有名なブナケン国立公園、
沈船やブナケンエリアとはまた一味違った
マクロウッチングが出来るメナド市南北エリア、
バンガイカーディナルフィッシュやヘアリーフロッグフィッシュなどをはじめ、
多彩で個性ある生物層に魅せられるレンベ海峡など、
ダイビングのバリエーションが豊富。
世界中のダイバーが集うメナドと、
その周辺海域の海の魅力について、
快適なりゾートライフと共にご紹介します。

Photo&Text **Ryo Minemizu, Yoko**
Special thanks **U Tour Service, Tasik Ria Resort, Kungkungan Bay Resort, Eco Divers,**
Siladen Reost & Spa, Walea Dive Center Resort

MANADO

Sulawesi Indonesia



モラス村の沖合いにある、全長60mの沈船。デッキの柱付近に沢山のナンヨウツバメウオが群れている

海に入ると、すぐに魚影の濃さがわかる。クマザサハナムロの群れ(左上)
ドロップオフの壁についたミスアマサンゴを覗くと、かわいいエビやカニがいることも(右下)
一つ一つが覆面レスラーの顔のように見えるホヤの仲間(下左)

メナドの壮大なドロップオフとその魅力



ブナケンエリアのドロップオフでよく見られるニチリンダテハゼ(写真下)
紺碧に染まるドロップオフを泳ぐと、まるで宇宙に浮いているような気分になる(写真左)



私をはじめメナドの海に潜ったのは今から12年ほど前、当時はメナドの海がようやく注目されてきた頃で、今ほどダイビングサービスも多くなく、半ば手探り状態で行ったメナドの地で、初めて海の中を見た時のあの感動は今でも忘れられない。メナドのダイビングポイントの中で、もっとも有名なのがブナケン島を中心とするブナケン国立公園エリア。このブナケン国立公園には、ブナケン島の他、シラデン島、メナドトゥア島、マンテハゲ島、ナイン島からなる大小5つの島があり、いずれの島も1600mから立ち上がるドロップオフとなっている。これらの島の魅力の一つは、なんとと言ってもそのドロップオフのダイナミックさにある。島の縁は浅いサンゴのリーフになっていて、そこから一歩踏み出すと、急激に落ち込んだひたすら碧い景色が広がっていて圧倒される。その碧の中を悠々と泳ぐイソマグロや何かのリズムに乗っているかのように突然現れるタカサゴの群れなど、魚影も濃くて、魚たちが生き生きとしている様子はこの海の魅力の一つと言える。



メナド市の南エリアでマクロ三昧

(写真左上から順に)ヘアリーフロッグフィッシュ(ポポ)／求愛中で鰓を立てたレオパードフランダース(タシクリアハウスリーフ)／リュウグウウミウシに付いていたウミウシカクレエビ(ポポ)／海底を取り巻くヨスジフエダイの群れ(バンガ島)／イッポンテグリの親(タシクリアハウスリーフ)／ホヤにいたコシオリエビ(ポポ)／よく見ると結構見られたベニハゼ属の一種(タシクリアハウスリーフ)／チニアノゴの仲間ヘテロコンガ・タイロリイ(タシクリアハウスリーフ)／ヨスジフエダイと共に群れるコクテンカタギ(バンガ島)／バンガの海はなぜか黄色い魚が多いような気がする。ヒメウツボ(バンガ島) (写真すべて峯氷亮)

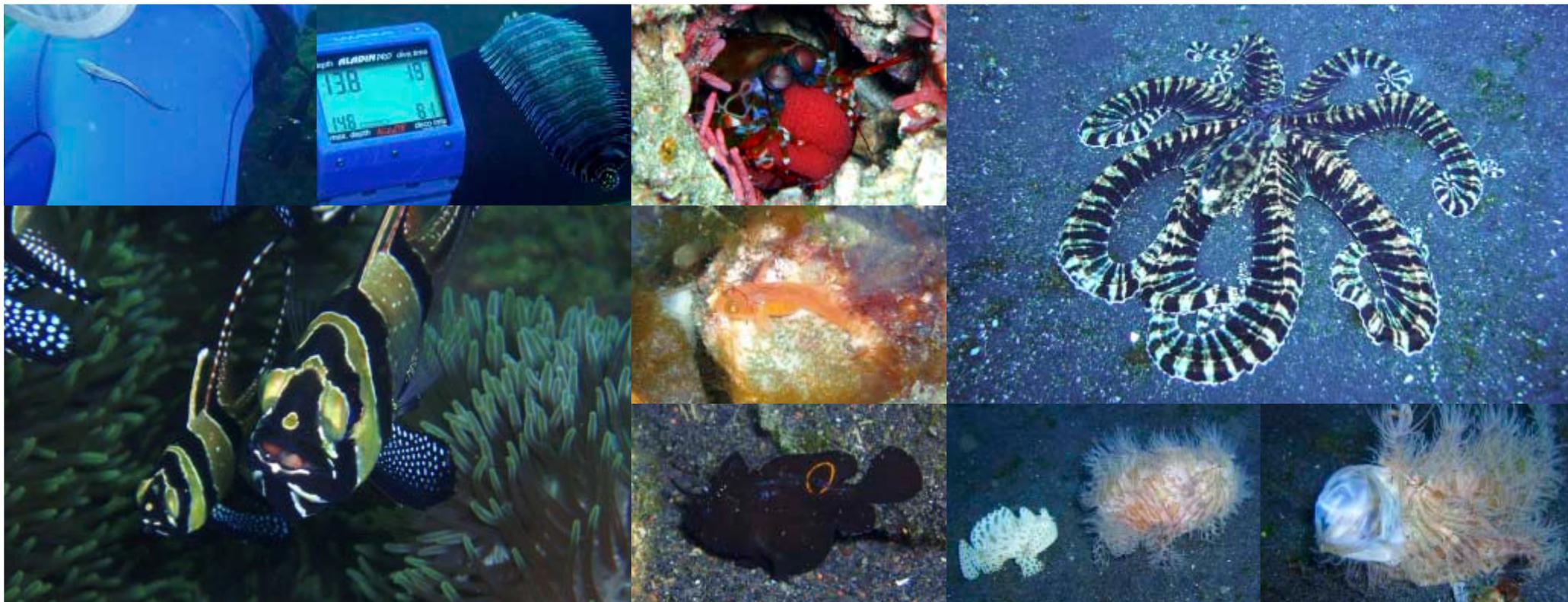
ドロップオフダイブを中心とするブナケン島周辺のポイントとは、また一味違った潜り方ができるのが、メナド市の中心部から南に下ったポポ村周辺海域と、今回私たちが利用したタシクリアリゾートの前にあるハウスリーフ。水深も浅くて潮の影響を受けることなく、じっくりフィッシュウォッチングできて、ひたすらマクロが面白いエリアだ。小さな入り江の砂地を中心としたポイントがメインになるが、浅場にはアマモ場が広がっていたり、内湾性のサンゴが点在するポイントやカラフルなソフトコーラルがはえるポイントなどもあり、そのバリエーションは意外

に幅広い。まさに初心者から上級者まで、皆が楽しめるポイントが集まっていると言っていいだろう。タシクリアリゾートからポートで約30分。ポポ村前には3つのポイントがある。小さな入り江の真ん中に真珠養殖の浮き屋形があり、水中の雰囲気は少し「レンベ」に近い。ヘアリーフロッグフィッシュやヒレナガネジリンボウ、レオパードフランダースなどがいる砂地系マクロポイントの「ポポ・ムエク」。白砂と浅場のサンゴ、カラフルなソフトコーラルが美しい「ココナッツケープやポポ2」が人気。また、タシクリアリゾート前のハウスリーフは全部でポイントが6つもあり、い

ずれも、ジェッティーからポートで約1～3分程度。水深が浅いため、たいてい3本目に行くことが多いが、浅場にきれいなアマモ場のある「クリッターズサーカス1」では、イッポンテグリの親やニシキフウライウオ、イバラダツなどが見られた他、まれにジュゴンも現れるそうだ。また、内湾系のサンゴが群生し、サンセットでニシキテグリの見られる「アネモネシティ」などもある。いずれのポイントも内湾環境なので、ブナケンエリア透明度は期待できないが、平均して10～15m前後はある。

デイトリップで行けるバンカ島

メナドのさらに北側にあるのが、バンカ島周辺エリア。潮の流れの速いポイントが多いが、水中の景観は極めて華やかで、色とりどりのソフトコーラルとカラフルな魚影が印象的。メナドと同じ北スラウェシの中でも、バンガの海は一味違ったダイビングエリアだ。そのエリアに、メナドからデイトリップで行くことができる。そんな夢をかなえてくれるのが、エコダイバーズが所有する2隻の大型ポート(アクアティカ号・ナウティカ号P7参照)。揺れに強くて、デッキの広い大型船なので、島々の風景を眺めながらちょっとしたクルーズ気分が楽しめる。



レンベ海峡のユニークな生態

(写真左上から順に)ガイドの鈴木さんのおしりに付いていたコバンザメ/突然、峯水カメラマンの腕に吸着行動をするササウシノシタの仲間/抱卵中のモンハナシヤコ/腕をいっぱい広げて威嚇するミミックオクトパス/卵を口いっぱいにくわえて口内保育するバンガイカーディナルフィッシュ/貝殻の裏に産卵していたミジンベニハゼの近縁種/オレンジ色のリングが特徴のイザリウオの一種/メスの後をチョコチョコと付いて回るオス(ヘアリーフロッグフィッシュ)/太あくびをした瞬間を激写(写真はすべてYoko・カメラOLYMPUS μ-40)

メナドの近隣のもう一つの顔、レンベ海峡。メナド市内から車で約1時間半。北のセレベス海と南のマルク海を結ぶ物流拠点ピトゥン港のすぐ側に、今回利用したクンクンガンベリリゾートがある。レンベの海は、南北に細長く伸びたレンベ島によって隔てられた内湾環境。海の中は個性ある生き物が勢ぞろいで、実にユニークな生態を見せてくれる。40箇所にもなるダイビングポイントの中でも、リゾートのジェッティからポートで3分の(ポリスピア)では、レンベの代表的存在といってもいい口内保育するテンジクダイの仲間「バンガイカーディナルフィッシュ」が、リゾート

から北側にポートで5分の黒砂のポイント(ジャヒル)では脅威の擬態テクニックを持つタコ「ミミックオクトパス」や全身を毛のような細長い皮弁で覆われた「ヘアリーフロッグフィッシュ」など、世界の海に誇る個性ある生き物たちが勢ぞろい。内湾環境ということで平均透明度は10~15m程、透明度は決して抜群とは言えないが、波もなく水深も浅くて、ストレスを感じることはない。穏やかな環境で、まるで水槽の中で見る様な感覚でじっくり観察できるのも、レンベの海の魅力と言っていいたいだろう。

Yokoの レンベ初体験



面白い生き物が沢山居るよという噂を聞いて、前々からずっと行ってみたいと思っていた、憧れのレンベの海に今回初めて行ってきました。初めて潜ったレンベの海は、噂通りユニークな生き物がいっぱいで、すごく面白かったです！それに、沢山泳ぎまわらなくても狭い範囲でいろいろ居るから、一つの生き物をじっくり観察できました。今回のレンベ取材の為に、奮発して初めてコンパクトデジカメを買ったのですが、思っていた以上に小さくて、手

に持っていてもストレスを感じないし、内臓ストロボだけでも結構いろいろ撮れることに気づきました。はじめは露出補正やピントの調整などで撮るのに時間がかかっていたのですが、それが良かったのか、何度も撮り直しているうちに、生き物たちの色々な生態を観察することができたので、ここぞと思った瞬間にシャッターを押しました。今までとはまた一味違った楽しみ方ができたし、いい思い出を沢山の写真に残せて良かったです。



夕方、漁師の家族が追い込み漁の準備をしていた



プールビューの室内/プールビュー



Tasik Ria Resort
http://www.tasikria.com
現地電話 62-431-824445
日本の連絡先/ユーザー
電話 052-963-9500
メール: tabikikaku@u-tour.jp



水を吐くカエルの置物がなんだか妙に笑えるプールサイド

近くて便利なプールビュー、 プライベートならシービュー

メナド空港からはリゾートの専用送迎バスで約1時間10分。メナドの市街地を抜けた街のはずれにタシクリアリゾートはある。セキュリティのしっかりしたゲートをくぐって、広大な敷地内に入ると中央にまず目にとまるのが周りを背の高い椰子の木で囲まれた美しいプール。プールの中央にはカウンターバーがあり、カクテルやトロピカルドリンクを飲むことがで

きる。プールを取り囲むように建つのが2階建てのプールビューのコテージ。全部で5棟あり、1棟に4部屋が配置されている。そして、プールの横をすり抜けて海沿いに案内されると1棟ずつが独立したシービューのコテージが14棟並んでいる。どちらのタイプも、エアコン・天井ファン・衛星TV・冷蔵庫・温水シャワー・トイレなどが完備されていて使い勝手は良い。プール



シービューのコテージ/シービューの室内



を見下ろせるレストランではインドネシア料理をアレンジした食事がメニューにある。肉や野菜の炒め物が中心だが、サラダやフルーツ、ケーキなどのデザート類も豊富。(人数が多いときはビュッフェスタイル)リゾート内には、イギリス系のダイビングサービス、エコダイバーズが併設。オーナーはイギリス人のジムさん。



リゾートのプール。現在この上にスパも建設中



デラックスタイプ
の広々とした室内

Kungkungan Bay Resort
<http://www.kungkungan.com/>
 日本の連絡先／ユーツアー
 電話：052-963-9500
 メール：tabikikaku@u-tour.jp

秘境レンベの 豪華リゾート

メナド空港からリゾートの送迎で約1時間30分。ピトゥン市の街のはずれ、ピトゥン港のすぐ近くにクungkunganベイリゾートはある。海沿いに面した広大な敷地のリゾートはセキュリティーもしっかりしていて安心。部屋は全室オーシャンビューで、コテージ・スイート・トラディショナルハウス、デラックスル



ダイビングの合間にはプールで泳いでリゾート気分を満喫



食事はメニューの中からアラカルトで選べる(写真はガドガド・温野菜のサラダ)
 メイン棟の2階にはインターネットの設備も

ームの3タイプ、高床式の全17部屋。木材をふんだんに使った豪華な作りの室内はどれも広々としていて、エアコン・天井ファン・TV・冷蔵庫・バスタブ・トイレなどが完備されている。リゾートの中央にはプールの他、六角屋根のメイン棟があり、中には24時間営業のレストランがあって、イタリアン・メキシカン・インド

ネシア料理のメニュー中から好きなものを注文できる。レストランの2階にはインターネット設備も完備。リゾート中ほどにあるプライベートジェッティの側には、ダイビング施設があって、温水シャワーや洗い場、休憩所なども海から上がってきすぐ利用できる点もうれしい。



エコダイバーズメナドのスタッフ

Eco Divers Manado
<http://www.eco-divers.com>
 電話 62-431-824445
 日本でのお問い合わせ先/ユーツアー
 電話 052-963-9500
 メール tabikikaku@u-tour.jp



メナドで随一を誇る大型ダイビングボートを所有

快適ダイブボートを持つメナドのエコダイバーズ

日本人常駐スタッフ

日本人スタッフの鈴木大介さんは、18歳の時に始めてスラウェシに来て真珠養殖の仕事をしたのがきっかけで、以後メナドの海の魅力や人々に引かれて、この地で仕事をするようになったそうだ。メナドは第2次大戦中から日本との関係が深かったそうで、地元のお爺さん達と話す、戦時中の日本人がとても親切に接したことは今でも語り継がれているという。その話を聞くと、自分が日本人であることが誇りに思えるし、日本人として恥ずかしくないように生きていこうと思う

鈴木さんは語ってくれた。鈴木さんにメナドの海の魅力について聞いてみる。ブナケンのダイナミックなドロップオフと透明度の良さ、何が出るかわからない意外性、ドリフトやレック・ワイド・マクロとバリエーションが多く、どんなお客さんにも対応できるメナドの海の懐の深さが大好きです！これからもずっとメナドでやっていきたい！と豊富を述べてくれた。鈴木さんのモットーは、カメラを持っているお客さんにはフィルムを余らせない。距離を泳ぎ回らない。来るお客さんには海も陸も満足してもらいたいとのこと、どんな事にも嫌な顔一つ見せずに努力する彼の姿に惹かれる人も多いだろう。今後の彼の活躍に期待したい。



船の上で調理されるランチは、出来立てほやほやの熱々!! しかも、おいしい!!!(上)
 2階のサンデッキで、潜水前のブリーフィング(下)



日本人スタッフ
 鈴木 大介さん



クungkunganベイリゾートのエコダイバーズのスタッフ

Eco Divers
<http://www.eco-divers.com>
 電話 62-431-824445
 日本でのお問い合わせ先/ユーツアー
 電話 052-963-9500
 メール: tabikikaku@u-tour.jp



スピードの出る小型ボートが4隻

写真派が集う、レンベのエコダイバーズ



物売りのおばさんが持っていた木製の水中メガネを借りてメナド版ウォーターボーイズ(左/筆水カメラマン/右/ガイドの鈴木さん)



カメラ派にはうれしいカメラ専用洗い場



バックロールでエントリー



メナドのアクセス

日本からはシンガポール航空利用が便利。シンガポールを経由し、シンガポールからは同航空の関連会社シルクエアでメナドまで。預け入れ荷物は日本からメナドまでスルーとなる。メナド空港からタシクリアリゾートまでは専用送迎バスで約30分。タシクリアリゾートからブナケン島エリアまでは船で約1時間、ボボは30分(船上ランチつき)また、北部のパンガ島への1日トリップも可能。片道約2時間半(朝7時出発~17時頃に帰港)。レンベエリアは、クungkunganベイリゾートでの現地宿泊の他に、タシクリアリゾートからのデイトリップも可能。車で片道約1時間半。メナドをベースに潜り、1日だけレンベへということも可能だ。

メナドのもう一つの選択肢

Walea Dive Center Resort

<http://www.walea.com>

ワレアの海はどう?

トミニ湾は南北を陸地で囲まれた湾になっていることから、一年中波が立つことがなく、穏やかでまた驚くほど透明度がよい。ダイビングポイントはエリア内に約30箇所あり、巨大なサンゴ礁「クラクラ」というポイントや、ドリフトで大物狙いのポイント「ゲコラン」「パサルプティ」「パサルイカン」などでは、イソマグロやツムブリ、スナッパーの群れが狙える。また、リゾートの正面に沈む、「ラブアン」という根では、カイメンや巨大なイソバナが生えるワイドな景観が広がり、カラフルなレモンチョウチョウウオやイナズマヤッコなどが見所。ハウスリーフのジェッティーではギンガメアジの群れが圧巻、また夕方になるとニシキテグリなども見られる。



ダイビング専用ボート



ワレアダイブセンターリゾートのスタッフ



水中には巨大イソバナやカイメンが多い

リゾートはどんな感じ?

メナドから更にメルパティ航空にて1時間、到着したルック空港からは車と船を乗り継いでようやく着くという、日本からはとても遠くて、休みの少ない日本人にとってはなかなか行きにくい場所だが、一度行くと是非もう一度行って見たいくなる、そんなリゾートがワレア。中央スラウェシのトミニ湾の真ん中に浮かぶ島、ワレアダイブセンターリゾートは、真っ白な砂浜のプライベートビーチの中にあり、緑に囲まれたコテージがビーチ沿いに並んでいて、まさに秘境のプライベートリゾートといった雰囲気。ヨーロッパ人に大人気で、イタリア人オーナーのルカさんシモーナさんがプロデュースする本場のイタリア料理が抜群。

巨大サンゴが群生するポイント「クラクラ」



イタリア人オーナーのルカさん(右)シモーナさん(左)

ビーチ沿いに並ぶコテージ

Siladen Resort & Spa Manado

<http://www.siladen.com>

豪華スパつきリゾート

ブナケン国立公園内の島の一つ、シラデン島内にある豪華スパ施設つきリゾート。リゾートの雰囲気の良さが好評で、主にイタリア人などを中心としたヨーロッパから大人気。リゾート内には大きなプールやプールを見渡せるレストラン&バー。豪華な個室&野外スパ施設もある。緑に囲まれた広いリゾート施設や、客室内の雰囲気もよく、アメニティーや花飾りなど、至るところにワンランク上のこだわりが見える。夕暮れ時にはビーチからメナドトゥア方面に沈むサンセットが美しい。ダイビングセンターも新しくオープンし、島からブナケンエリアへのダイビングがアクセスも良くして便利。



個室スパの室内



シービュールームの豪華な部屋



レストラン



リゾートのプール